

平成30年度 学校経営計画

練馬区立石神井西中学校
校長 松丸 晴美

1、学校経営の理念

- I どの生徒も磨けば輝く宝である。その生徒の良さを発見し、伸ばすための効果的な指導の役割を担うのが教師である。
教師の言動は、生徒の将来にわたって大きな影響力を及ぼすことを自覚し、一人一人の教師が、敬愛され信頼される教師となるために、日々研鑽を積み、専門性と人間力を高め、組織的に教育活動にあたる。
- II 常に社会の動向を注視し、時代の要請や変化とともに教育内容や方法を絶えず刷新しながら教育計画を策定し、実践する。
- III 組織の和を重んじ、良き伝統は受け継ぎ、課題解決や改善に向けては、迅速かつ組織的に対応する。

2、学校の校訓・教育目標

豊かな人間性と自ら考え、主体的に判断して行動できる力と国際社会の中で貢献できる人間力の育成を目指して校訓と教育目標を設定し、具現化に向けた教育活動を推進する。

校 訓 「 叡智 健康 自治 共生 」

- 教育目標
- 健康で自主性に富み、実行力のある生徒
 - 自由と責任を重んじ、規律ある生活を送る生徒
 - 仕事と勉強にうち込む生徒
 - 自分や友達を大切にし、よい集団を育てる生徒
 - ◎ 国際的な視野をもち、人との共生を図る生徒（重点目標）

3. 目指す学校の姿

◇社会の激しい変化とグローバル化が一層進展する世界の中で、自ら考え、主体的に判断して行動できる力と国際社会の中で貢献できる人間力の育成を目指す学校

4. 育てたい生徒の姿・目指す教師の姿

【生徒】

- ◇夢や志を持ち、自分の可能性に挑戦し、努力し続ける生徒
- ◇心身の健康づくりに努め、自他を大切にし、思いやりの気持ちをもって行動する生徒
- ◇自治の精神を基調に、規律ある学校づくりに主体的にかつ協働して取り組む生徒
- ◇国際的な視野をもち、社会に貢献しようとする意欲や態度をもつ生徒

【教師】

- ◇生徒の心情を深く理解し、自己実現に向けて共感的に寄り添い、労を惜しまず支援する教師
- ◇学習指導や生徒指導などの専門性を磨きながら、自ら手本を示し、指導者として努力し続ける教師
- ◇社会の動向を注視し、学校運営への参画意識をもちながら、主体的かつ組織的に職務を遂行する教師

5. 期待する保護者・地域社会の人々の姿

- ◇我が子のしつけを責任もって行い、社会性の育成に向けて学校と連携・連絡を密にして共育する保護者
- ◇学校に建設的な意見を述べ、積極的にボランティアとしてかかわる保護者
- ◇生徒を我が子と同様に温かく見守り、声をかける保護者・地域社会の人々

6. 目指す学校・生徒・教師の姿を具現化するための中期経営目標と達成するための基本方策

人権尊重の精神を基盤に、生涯学習の基礎を培うという視点に立って、以下の事項を柱にして、教育活動を推進する。

具体的な取組、達成目標を個々に設定（自己申告書に記載）するとともに、各分掌・学年・特別委員会、教科等のチームで共通理解を図りながら、具体的な方策・取組や目標指標を設定し、個々の責任・役割を果たし、組織的に校務に取り組む。

学校経営の基本となる7本の柱（グランドデザイン）

A：豊かな心の醸成

- ① 道徳の時間を要とし、全教育活動を通して互いの生命や人権を尊重し、相手の身になって考え行動する力、思いやりの心を育てるとともに場に応じた言葉使いができるようにする。
- ② 学年・学級活動、学校行事、道徳授業、部活動などを通して、規範意識を高め、規律ある集団づくりをしようとする心や態度を育てる。
- ③ 学校行事や部活動、スポーツ活動などを通じて、他者との協働や公正さ、公衆道徳を重んじる態度を培う。

B：確かな学力の定着・向上

- ① 生徒の主体的・協働的な学びを促進する多様な学習形態や指導方法を工夫し、言語活動を充実させるとともに、思考力・判断力・表現力を伸長する。また、指導と評価の一体化を図り、補充指導等を通して基礎的基本的な学習の確実な定着を図る。
- ② 自学自習に対する助言・適切な宿題や課題の提示を行い、家庭学習習慣の形成を図るとともに、各種検定試験等を活用し、高い目標に向けて努力する姿勢・チャレンジ精神を育む。
- ③ 授業や学校行事などを通して、自然や科学に対する興味・関心を高めるとともに、日常生

活との結びつきや科学技術の進展、環境保全等について考え、行動する力を伸長する。

C：自立に向けたキャリア教育の推進

- ① ゲストティーチャーの講話や職場体験学習などを通し、中学校での学びと職業を結び付け、望ましい勤労観・職業観を確立させる。また、将来必要とされる能力育成のための学習意欲を高める。
- ② ボランティア体験や社会福祉施設での体験学習等を通して、共生社会の実現や社会貢献について考え行動する力を養う。
- ③ 体験的・課題解決的な学習や外部人材を活用し、自己の生き方について考え、主体的に希望進路の実現を図ろうとする力を高める。

D：自己指導能力の伸長

- ① 全教育活動を通し「時を守り、場を清め、礼を正す」の理念を実践する力と目標を設定し、実現に向けて挑戦する意欲や態度を培う。
- ② 自治の精神を基調にし、生徒会活動や学年・学級活動、学校行事、部活動などを通し、自主的自律的な態度と自分の役割を責任もって果たそうとする態度を養う。
- ③ 生徒会を中心とし、青少年赤十字の精神を基調としたボランティア活動・体験を通して奉仕の精神や豊かな人間性・社会性を育てる。

E：心身の健康と体力の増進

- ① 運動・スポーツ活動を通し、豊かなスポーツライフの基礎を培う。
- ② 新体力テストや小中一貫教育を活用し、保健体育の授業・部活動などを通して、発達段階に応じた基礎的な体力や運動能力を向上させる。特に、投力・持久力を伸長させる。
- ③ オリンピック・パラリンピック学習やゲストティーチャーを招聘した講演会や体験等を通し、障がい者スポーツへの理解を促進するとともに、技術家庭・特別活動とも関連付け、望ましい食習慣の形成や健康増進に対する興味・関心を高める。

F：国際人となる資質の育成

- ① 日本の伝統・文化に対する理解を深める授業や教育活動を充実させ、我が国の良さを知り、郷土を愛する心や態度を培う。
- ② 全教育活動を通してオリンピック・パラリンピック学習を行い、その精神や歴史・意義を知り、他国の伝統・文化や他国の人を尊重する心や国際社会の一員として、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する。
- ③ ALT の活用と授業や学校行事などの内容を工夫し、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を喚起し、実践的な英語活用能力を向上させる。

G：安全・安心で、保護者・地域に信頼される学校づくり

- ① 安全管理を徹底し、美しい教育環境の整備を図るとともに、特別支援教育の視点にたった校内・学級環境整備を行う。
- ② 適切な学校情報の発信と学校評価を活用し、学校運営の改善を推進する

- ③ 計画的な安全指導、避難・防災訓練を通し、危機回避能力を伸長させる
- ④ 練馬型小中一貫教育を通して、9年間を見通した効果的な学習・生活指導を行う

7. 今年度の取組の重点

- (1) 前年度の学校評価結果と改善に向けた校長見解（※参照）に基づいて、今年度の重点目標を定めた。各目標について、個人でどのように取り組むかの具体的な手立てについては、自己申告書に記載する。分掌または学年組織（チーム）の目標及び具体的な手立ては、各学年・担当分掌で検討し、学年主任・分掌主任が資料を作成し・達成状況について報告する。また、自己申告書の「学校運営」欄に担当分掌に応じて記載する。
- (2) 各学級の経営案（目標と具体的な方策）は、学校経営方針及び学年経営計画を基調として作成し、年度初めの保護者会資料として配布し、学級懇談会で担任から説明する。
- (3) 8月に、各学年・各分掌等で中間評価を行う。さらに12月の学校評価や生徒授業アンケート（7月、12月）等を活用し、成果と課題を明確にしながる取組の改善を行っていく。
- (4) 特別な教科 道徳の実施に向けて、道徳の授業改善を中心に研究を推進する。
（ ）書きは、平成29年度の評価、太字は今年度の超重点目標として取り組む。
- (5) 次年度の特別教室設置に向けて、ユニバーサルデザインを意識した校内環境整備を推進する。

※参照：【学校改善に向けた校長見解】

- ◇今年度の最重点目標であった「思いやりの心」「相手の身になって考え行動できる力」の育成については、特定の生徒に課題が残るものの全体として一定の成果があがった。引き続き、保護者を啓発しながら道徳授業と関連付け、全教育活動を通して育成していく。
- ◇時間や挨拶、服装などの基本的な生活習慣の形成はほぼ満足な状態になった。次年度も気を抜かず、生徒の自覚を促し保護者の協力を得ながら良い状態が維持できるよう指導していく。
- ◇集合や話を聞く態度、場に応じた言葉使いなどは、小学校との違いが一番大きいところでもある。入学当初にしっかり指導していくことでさらに改善していく。
- ◇新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善については研修を通して各教員の理解が進んだ。それぞれの授業の中で話し合い活動などをさらに工夫しながら、生徒の思考力・判断力・表現力を伸長していくことを心掛けさせ生徒授業アンケートで検証する。また、技術科の授業で身に付けたパワーポイントや菊の栽培技能を理科や総合的な学習の時間で活用し、相互に教育効果が高まったので、次年度はさらに教科横断的な指導を意識して実施していく。
- ◇家庭学習の取組については、昨年度より改善しているが1年生に課題が見られた。次年度は、入学後の早い段階から適切な宿題と課題を提示し、丁寧な点検指導を行い家庭学習習慣の形成を図っていく。また学習習慣が身に付いていない生徒には、定期考査前の補充教室や放課後のステップア教室（地域未来塾）等への参加を個別に促し、支援していく。
- ◇評価・評定については、毎年、年度当初に研修を行い、適正な評価の実現に努めているが、塾やペーパーテストの得点に比重を置いた評価観にとらわれている保護者もいるので、三者面談などの機会に、個別に資料を提示しながらさらに丁寧な説明を心掛けていく。
- ◇オリンピック・パラリンピック教育については、次年度も、学校教育目標の重点であるボランティアマインドの醸成と国際理解を中心に取り組んでいく。単位時間の取組に留まらず、事前・事後の指導と合わせて推進していく。
- ◇オリンピック・パラリンピック学習を通した実践的な英語活用能力の向上には課題がある。都や区中研の英語研修への参加を促し、研修内容を相互に活用することによって、授業の質

の向上を図っていく。次年度は、英語検定試験の導入ならびに東京グローバルゲートウェイを活用した英語型校外学習（2年生）を行い、改善する方策の一助としたい。

◇練馬区教育課題研究指定校2年目となるので、今年度研究・実践を進めてきた内容を踏まえ、ローテーション授業と石西中オリジナルの道徳ノートを使用した評価の在り方を柱として研究・実践を深め、成果と課題を広く公表していく。

柱	重点目標	担当分掌	成果指標（ ）は昨年度	
			教師	生徒（保護者）
A	① 思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる力を高める ② ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てる ③ 場に応じた言葉遣いや返事ができる	生活指導部	・肯定的評価85% (84.4%) ・肯定的90% (90.3%) ・肯定的評価85% (83.9%)	・肯定的評価90% (85.5%) ・肯定的評価95% (89.8%) ・肯定的評価90% (87.9%)
B	① 補充指導・基礎・基本の確実な定着 ② 思考力・判断力・表現力を高める授業を行う ③ 家庭学習習慣を形成する（テスト前の学習に重点）	教務部	・肯定的評価80% (74.2%) ・肯定的評価80% (75.1%) ・肯定的評価80% (62.1%)	・肯定的評価80% ・肯定的評価80% ・肯定的評価90% (57.8%)
D	① あいさつができる（声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼） ② バッチを毎日着用する ③ 式服・体育着について、きちんとした着こなしができる ④ 時間を守る（授業・朝礼・集合） ⑤ 話を聞く態度を素早く整える（私語をせず待つ。無言で話を聞く）	生活指導部	・肯定評価80% (64.5%) ・肯定評価80% (64.5%) ・肯定評価90% (87.1%) ・肯定的評価90% (80.0%) ・肯定的評価80% (63.3%)	・肯定的評価90% (82.5%) ・肯定的評価70% (77.5%) ・肯定的評価95% (94.9%) ・肯定的評価95% (88.9%) ・肯定的評価90% (79.7%)
F	オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・文化・伝統等を尊重する態度や心を育成する。	生涯学習部	・肯定的評価90% (93.4%)	・肯定的評価90% (76.3%)
E	障がい者スポーツの体験・理解を深める。 体力（投力・持久力）の向上を図る。	体育科	・授業アンケート 肯定的評価70% (63.0%) (65.5%)	・肯定的評価70% ・体力調査評価向上
F	・ALTや校外学習（TGGW）等を活用した英語でのコミュニケーション意欲を高める。 ・実践的な英語活用能力を向上させる。	英語科	・授業アンケート 肯定的評価70% (50.0%)	・肯定的評価70%

D	① 生徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長する。 ② 青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する。	生活指導部	・肯定的評価85% (86.7%) ・肯定的評価80% (63.4%)	・生徒評価90% ・ボランティア参加生徒延べ在籍3分の2以上
G	① 生徒理解と適切な支援 SCや関係機関との連携 ② 校内掲示物・教室環境整備 (新設)	環境保健部	・不登校生徒出現率 在籍数の2%以下 ・肯定的評価80%	1年 1.3% 2年 1.0% 3年 4.1% 全校 2.1%
教職員	① ホームページや学年だより等による広報を適切に行う ② 地域の祭礼等のパトロールに参加する ③ 服務事故の徹底防止と個人情報の管理徹底 ④ 「 道徳 」の研究を推進し、成果を広く公開する。 ⑤ 小中一貫教育研究グループの取組を通して小学校への理解を深め、小中9年間の接続を意識した生徒指導・学習指導を実施する ⑥ 自ら研鑽し、専門性の向上・教師としての資質向上を図る	全教職員	① HP毎日更新、学年だより週1回 (100%) ②年1回は参加する (90.3%) ・服務事故ゼロ ③ (100%) ④ (90.3%) ・全教員が当事者意識をもって取り組む ⑤ (63.3%) ⑥ (74.2%)	・学校評価95% (90.5%) ・参加率95%

8. いじめ・体罰への組織的な対応

- ①学校いじめ対策推進委員会を中心として、いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を目指した取り組みを「石神井西中いじめ対策基本方針」として定め、全教職員が保護者や学校関係者と一体となって、いじめの根絶に努める。
- ②教職員が、「体罰は、人権侵害である」との認識にたち、日頃から研鑽を積んで指導力を磨き、相互に体罰を許さない学校風土を醸成する。
- ⑥ いじめや体罰のない学校の実現に向けて、校長の示す学校経営計画に基づき、副校長、主幹教諭、学年主任を核にして、全教職員が情報共有と指導に対する共通理解を図り、問題や課題解決に向けて組織的にかつ遅滞なく対応する。
- ⑦ 毎月の「いじめに関するアンケート」を工夫して行い、スクールカウンセラーやふれあい相談員を活用しながら、いじめの早期発見・解決に努める。
- ⑧ 悪質ないじめについては、警察等と連携しながら再発防止に向けて取り組んでいく。
- ⑨ 石神井西中 SNS ルールを見直し、インターネット等を活用したいじめの防止に努めるとともに、セーフティー教室や情報モラル教室を通して、保護者や関係機関と連携したトラブルの未然防止・解決に努める。